

# どんな子みっけ？

新年度のスタートから一か月半。新しいクラスの雰囲気にも慣れて、自分の力で、楽しいことはもちろん、やらなければならないこと、がんばりたいことなど、子どもたち一人ひとりが気持ちを躍らせて生活している様子が感じられるこの頃。参観にいらしていただいて、お子さまの姿は、お家の方にどううつったでしょうか。



先日、5月13日の「母の日」にちなんで、お母さんにプレゼントを持ち帰りました。各クラスの活動を通して、子どもたちから感じるがありました。それは、子どもながらに、「誰かを喜ばせることの喜び」を抱いていることです。今まで「母の日」についてあまり知らなかった年少組が、お母さんにプレゼントする絵を描きながら、「ママには内緒だよね！」とか「早く持って帰りたいな～」と言います。他にも、プレゼントを持ち帰った日のバス停で、降りるや否やお母さんにすぐに渡たす子がいたり、いつもは持ち帰った荷物をお母さんに持ってもらう子も、この日ばかりは自分で持って、隠しながら家まで持って行ったり・・・。それぞれお子さんごとに、喜ばせ方に違いはありますが、大好きなお母さんの笑顔思い浮かべて、ワクワクしていたに違いありません。

そんな様子は、新学期始まって間もなく

の幼稚園でもありました。毎日お家から手こずって、バスの中はもちろん、幼稚園でも泣いてイヤイヤすることが多かった男の子。でもある日、涙を見せることなくバスを降りて来て「ニヤリ」。先生が、びっくりした顔をしてみせると、「泣いてないよ！」と自信たっぷりに言うのです。先生との信頼関係が築けたことで、「泣かないと先生が喜ぶかな」「びっくりするかな」など、「誰かを喜ばせることの喜び」を先生に巡らせながら頑張ったのだらうなと思います。

こんなふうには、「喜ばせたい」気持ち、どこからくるのでしょうか。それはやっぱり、生まれた時からご家族皆さんが、「あんよが上手ねえ」「『ママ』ってしてくれたのねえ」etc... お子さんが出来るようになったことや、かわいい仕草をするたびに、いっぱい喜んであげた経験が、子どもたちの「大好きな人を喜ばせたい！」の気持ちに繋がっているのですよね。

誰かを喜ばせてあげたいと思う気持ちを育てている子どもたち。幼稚園で過ごす時間の中でさらにたくさんの成長をして、ご家族の皆さんに喜んでいただけたら、職員一同うれしく思います。少し遅くなりましたが、今年度も『こんな』をよろしく願います。



# こんな

「こんな」は、ようちえんで起こる  
こんなとき・こんなこと・こ～んなにを  
折々お届けします。

## やってちょうだい！

突然の「わぁ～ん」という大きな泣き声。びっくりして見に行くと、園服のボタンが留められずに泣いているのでした。せっかくやる気になったのに、できなくて悔しかったのでしょうか。先生は、頑張りを受け止めつつ、「ボタンかけて難しいのよね。でも泣かなくて大丈夫！『やってちょうだい。』って言えば、お手伝いしてあげるよ。」と伝えます。すると、泣きながらも「やってちょうだい！」。

言葉で“お願い”が上手にできた子に、「ちゃんとお話できてすごい！」と褒めると、それを見た周りの子たちが「やってちょうだい！」の大合唱になることもあります。自分でやることは大切ですが、困った時に自分から、アクションを起こせるのはとても大事です。

パパママは、見守っててちょうだい！



## 年少組



年長さんにお手伝いしてもらいながら、見よう見まねで出来るようになったことが沢山！



ピアノは年中組になったからこそ使える新しいお道具。毎日大切に使っています。

「先生たいへん！年少さんがフライパン持って行っちゃった！」とか、「ぼくが作ったブロック壊したんだよ！」と苦情が殺到中です。

先生は、「それはイヤよね！でもきつと、まだわからないことがいっぱいなのね。みんなも入園したばかりの頃はそうだったでしょう？忘れちゃったかな～」と言うと、「エーッ」と、おどけてみせる年中組。

考えてみれば、使っているものを奪われたり、壊されたりする体験は、久しくなかったはず。みんな、お友だちと仲良く遊べる技を身につけているからこそ！なのです。最初のうちはおもちゃを取られても、何が起きているのか、放心状態でいましたが、今では「いけないんだよ！」ときっぱり怒って！先生よりちょっと厳しい～年中先生です。

## ご～んな子みっけ！



わっしょい！  
わっしょい！

「重たいよ～」の声から駆けつけ、手伝ってくれるな・か・ま！



階段の手すりを線路にしてあそんでいます。坂道をちょうどよくするのです。

Illustration by nishin



「お帰りの支度、頑張ったね！」と、年少さんを“いい子いい子”する年長組。



年少さんのお世話に燃えている年長組。たいへんならたいへんなほど燃えるようで、涙ちゃんやフラフラくんも、「ほら！お姉ちゃんと一緒にいこう！」と言って、手を繋いでやさしく連れて行きます。ちゃんと気持ちを受けとめてから行動するあたりは、先生顔負けです。

お弁当の時間になると、いつものように年少さんの部屋に「お手伝いに来ました！」と入って行きます。すると、大きな泣き声が聞こえて来ました。お弁当に入っていた保冷剤が破れたことで、なかなか涙が止められないでいたのです。年長組が入り代わり立ち代わり「大丈夫だよ！」と声を掛けますが、大声をあげて泣くばかり。先生が思わず「お兄ちゃんありがとうね。びっくりして涙が止まらないみたい。もう大丈夫よ。」と声を掛けました。すると、「オレもそういうことある！」と共感しながら、「うわっ！

このお肉美味しいそう。」とお弁当に気持ちが向くように言ってあげるのです。周りの子もひたすら頭を撫でたりして励ましていました。

そんな技をいつ学んだのか。年少さんを可愛く思ったり、何とかしてあげたい気持ちが、言動に現れたのでしょうか。先生顔負けのやさし～い年長先生でした。